

令和7年度トライアングル研修会について

説明「本研修会の趣旨」

令和7年9月9日（火）

秋田県教育庁特別支援教育課

趣旨

障害のある子どもの切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて、子どもの学習や生活を総合的に支える視点から、三者（保護者、学校関係者、放課後等デイサービス事業所関係者）の連携の必要性について理解を深める。

これまでの取組

実施年度	取組内容
令和元年度	・調査(対象:小・中学校)
令和2年度	・調査(対象:放課後等デイサービス事業所)
令和2～3年度	・連携促進に向けた研修会 ※6市(大館市、秋田市、大仙市、北秋田市、 由利本荘市、湯沢市)で開催
令和4年度	・連携促進会議(モデル市:由利本荘市)
令和5年度	・連携促進会議(モデル市:湯沢市) ・調査(対象:放課後等デイサービス利用保護者) ・トライアングル研修会
令和6年度	・連携促進会議(モデル市:大館市) ・トライアングル研修会
令和7年度	・トライアングル研修会

令和7年度 トライアングル研修会 アンケートより

全回答者数 62名

(内訳) 放課後等デイサービス事業所 19名

小・中学校教諭等 7名

特別支援学校教諭等 11名

相談支援事業所等 14名

福祉関係課 4名

教育関係課 3名

保護者 4名

3 どのような内容や方法で三者の連携が行われていますか。

- 特別支援学校が主となって個別の支援計画の情報共有をしている。
- 放課後等デイサービス事業所が主となり、三者のスケジュールを調整し、学校を会場に共通理解のための会を実施している。児童の様子や変容の共通理解、放課後等デイサービス事業所や家庭での様子、課題等について話し合っている。
- 相談支援事業所が主催する、サービス担当者会議に、家庭、放デイ、学校が出席し、課題点等について情報共有している。

3 どのような内容や方法で三者の連携が行われていますか。

<保護者>

- 迎えの引き渡しの際に一日の様子の中で、主だったことを伝達していただいている。
- 相談支援員の方を通して連絡を取っている。
- 入学前に三者での打合せをしていただいた。

4 児童生徒への支援の充実のために、今後どのような連携があればよいですか。

放課後等デイサービス事業所

- 三者連携は、行われるのが一般的だという認識
- 学校や他施設での様子や支援の内容を知る機会
- 三者連携のための組織としての仕組みやシステム
- 三者での顔合わせや情報共有のためのツール

4 児童生徒への支援の充実のために、今後どのような連携があればよいですか。

学校

- 定期的に連携を行い、必要に応じて連絡を取り合うなどの無理のない連携
- 役割をお互いに理解するための機会
- 児童生徒の課題等に共通の手立てで支援できる体制
- 定期的に子どもの成長を評価できるようなケース会

4 児童生徒への支援の充実のために、今後どのような連携があればよいですか。

関係機関（福祉担当課、基幹相談支援センター、相談支援事業所、教育委員会等）

- その子や家族に合った、無理のない支援
- 情報共有を行いながら、押し付けにならない連携
- 保護者が学校、事業所、福祉部署など、どこに相談しても良い連携が取れている状態
- 学校に相談支援事業所や放課後等デイサービスを知ってもらえるような場
- 学校、家庭、放デイ、相談支援事業所での情報交換の場

4 児童生徒への支援の充実のために、今後どのような連携があればよいですか。

保護者

- オンラインやオンデマンドなどの方法を使った連携、会議
- 保護者が子どもの発達特性等に悩んだ時に、専門家等に気軽に助言を求められるような取組
- 放課後等デイサービス事業所等による、定期的な学校訪問により、学校での学びを療育に繋げる取組

アンケート回答の傾向

- 三者にとって無理や負担のない連携の在り方を考えていくことが大切と感じている。
- それぞれの地域の現状に合わせて、情報共有の機会を設定することが必要と感じている。
- 基幹相談支援センターや相談支援事業所を含めた連携が必要と感じている。